

レースって良いよね

## 第13回 「誰がために」

突然だけど、レーシングスポーツは特別なスポーツではない。そう、ある意味特殊では有っても、特別なモノじゃない。例えばサッカーやマラソンの様に誰もが参加でき、誰もが楽しめるスポーツの一つなのだ。

ただ、レース(スポーツ走行)に参加したい運転手一人の力ではどうにもならない要因が多いのは確かである。

それは、道具の性能差、メンテナンスの技量差、また搬送の手段に至るまで多くの人の手助けを必要とするのが事実で、これらが先程の「特殊」ということになる。この日本に於いて、趣味としてレーシングスポーツを楽しむにはやはりそれなりの資金が必要になる。とはいえ、エントリーカテゴリーでは極力エントラントの必要経費を安く保てるよう工夫がされている。

それはワンメイクという措置であったり、車両規則によって技術的に抑えられたり、もともと車両の価格設定が決められている場合もある。また、車両の保管、メンテナンス、搬送を請け負うメンテナンスガレージもレース村を中心に全国に数えてみれば大小結構ある。たまに怪しい話も聞くことは有るものの、大多数のきちんと客の立場を考えてくれるメンテガレージならば出来る限りコストを抑えてくれるはずだ。

こういうバックアップが最初には必要となるのだ。また、ガレージなどでレース屋と接しながらクルマの事、走り方、セッティングの進め方などを把握していくのがかなりの収穫になる筈である。ステップアップを狙うならなおさらだ。

日本の場合、どういう訳かトップカテゴリーに関してはオタクのような知識人は多い。それは個人の自由なのだけど、トップカテゴリーは誰が支えているのかをもう少しクローズアップしても良いのではないだろうか。別にカテゴリーの大小を比較するのではないが、持ちつ持たれつであることが忘れられているような気がしてならない。

例えば雑誌。毎号毎号、各誌よくエフワンなどのトップカテゴリーネタに事欠かないなど、逆に感心するのだが(地理的に編集部の在る東京からトップカテゴリーを扱うチームの多い御殿場に足が増えるのも理由の一つなのか?) 対するエントリーレースに関しては一時期より改善されているとはいえ、決して内容豊富とは断言できないと思う。身近な所では、F4というカテゴリーがある。2000年を節に結構技術的に改革が在った。また、WESTで3年ぶりの意欲作「006」のプレスリリースもあった。

もし、英国の「AUTOSPORT」誌ならばマシン製作途中の取材をしているだろうし、もし私が記者の立場なら現役プロレーサーによるLSD装着車とそうでないマシンとの乗り比べ企画も考え付くだろう。現に、80年代初頭の国内オートスポーツ誌には今とは比べられないほど柔軟な企画が目白押しだったのだから。

これはF4に限ったことではなく、他のカテゴリーについても同じ事が言える。単純に紙面を割いて、軽くレース内容を書いてリザルトを載せるだけなら誰でも考え付くというものだ。せつかく貴重な紙面を使うのだから各誌もう少し踏み込んでくれても良いのではないだろうか。

別にドライバーサイドだけの問題でなく、将来メカニックやエンジニアになりたい者にとってもエントリーレベルの情報は役立ちこそすれ決して無駄になるものではない。逆に、トップカテゴリーだからといって技術的見地まで特別なのではない。基本を抑えていればあくまでも応用などを要するという延長線上に類することでしかない。むしろ、基本がぶっ飛んでいきなりトップカテゴリーの知識しかないというのは結構シリアスな問題だ。設計者がそうだと、ずいぶん頓珍漢な設計をしてくれるから、製作者が泣く羽目になる。

誰もがこのままではいけないと感じている。誰かが変えていかなければならない。個人に出来ることなどせいぜい知れている。マスメディアの力が必要不可欠なのは明らかなのだ。コンストラクターもまた、もっと積極的にアピールをすべきなのである。

最近はやりのスクール物もそれはそれで結構。だけど、ドライバーの全てが上を目指しているわけではないし、上を目指す者はどんな状況にいても這い上がっていくものだと思える。そのシビアさがいわゆる超えなくてはならないハードルなのではないだろうか。

いずれにしろ、文化が育たなければ何をやってもあまり意味をなさないと感じてならない。その文化を支えるのはエントリーレベルにいる多くの無名レーサーであり、オフィシャルであり、レース屋であり、ファンである。その中から将来のトップレーサーなりエンジニアが出てくるというのは理にかなった話ではないだろうか。

と、実はこんなことを書くのには理由があった。

コンストラクターズミーティングに今じゃ有名な某トップコンストラクターという所の H 氏が現れ、

「スペースフレームのレースなんか必要無い」

とか何とか他にも色々言ったとか。自分で聞いた訳ではないからあくまでも噂の域であると信じたい。耳を疑うが、もし本心ならばかなりショックである。某社が日本の市場に愛想を尽かして外国でも何処でも行くのは自由だし、勝手にやってくれる分には一向に構わないが、一生懸命日本のレースを愛している人間にまで激震を与えないで欲しい。影響力は確かに「トップ」の某社なのだから。